

一方的な「差し押さえ」はやめよ！

本人の「勝手にしろ」の言葉に、予告なく差し押さえ



9/27北部民商は生命保険を差し押さえられたYさんの差押え解除を求めて、会長・事務局長らがYさんの妻に同行して北区の国保課と折衝を行いました。

Yさんは自営業で収入が減り、8月の納付相談では毎月8000円ずつの納付約束をしていました。ところが北区役所は、Yさんに生命保険があると差押えて9/30までに滞納額を納付しなければ保険を解約すると通告。9/20に生命保険からお金を借りて滞納保険料を支払うので差押え解除を要求しましたが、納付がなければできないと拒否されました。

国保課長との話し合いではYさんが呼吸器疾患があり、生命保険が解約になれば再加入は難しいこと、入院などの費用に生命保険が必要と話し、9/30の差押え執行は猶予になりました。しかし差押え解除には至らず、今後も相談となりました。

今回は相談に行った際に、職員の対応に怒ったYさんが「差押えでも勝手にしろ！」と言ったことを口実に、予告なしで差押えを実行しています。民商はこの件と合わせて、一方的な差押えをしないことなど5点について区長宛に要請を行いました。

2010年度の滞納処分内訳		
財産内容	件数	金額 (円)
預金	435	95,611,940
給与・年金	99	3,985,263
生命保険	572	199,343,483
その他	4	565,730
破産事件	234	52,315,422
	1,344	383,821,838

国保資格証明書「受診抑制はある」市議会で市長答弁

9/29の市議会で、共産党小形かおり市議の国保資格証明書による手遅れ死の質問に答えた上田市長は、「統計的には資格証明書の受診抑制はあるのではないかと答えました。一方で「それが悪化につながったとすれば保険証の問題だけでなく、その人が孤立状態にあるのではないかと、支え合える地域づくりが必要」と一般論で逃げました。国保資格証は制度として発行されているために受診できない人が出るわけであり、私たちは制度のあり方と発行自体を問題にしているのだから、困っている人の支え合いを問題にしているわけではありません。また、副市長答弁では資格証の発行を「会えない方に会うために発行していることもある」と答弁しており、納付相談を前提とせず発行していることも示しているため、重大な問題です。

これで大丈夫？—避難所ウォッチング 西区社保協

9/27西区社保協は3.11大震災を受けて、災害時の避難所と備蓄用品の状況を確認しようと、西区役所に要請して避難所ウォッチングを行い、6人が視察しました。

西区役所、まちづくりセンター、小学校などの避難所と備蓄物資の状況を見て回りました。いずれも改善や増量など検討を始めているとはいえ、極めて少ない備蓄品に参加者から大きな不安の声が出ました。

菅原事務局長は「災害時の食料備蓄では3日間分は市民各自の自己責任となっていること、災害時の物資は提携している配送業者が運ぶ契約になっているが実際に可能なのか、西区内30の小中学校の内10校にしか備蓄品がなく、避難しても毛布や食料などが無い状態、西区では3万人の避難者を想定しているが毛布は1割の3000枚しか用意がないなど、不安になることばかりでした。今回の調査をまとめて、区・市には改善の要望を出していきたい」と述べていました。



備蓄用品を視察する本間西区社保協会会長・菅原事務局長ら

各団体が宣伝でアピール

学童保育、介護、障害者の宣伝



学童保育の充実を（写真左上）

市学童保育連絡協議会は23日大通公園で、学童保育の拡充を求めて宣伝と署名を行いました。学童クラブの指導員や父母など30人が参加して、学童保育の登録を5年生以上も対象にすること、民間学童保育所への支援拡充などの署名を訴え、260筆余りの署名が寄せられました。

市連協では西区・東区・豊平区など各ブロックでも署名行動に取り組んでおり、市議会へ提出した陳情は10/4の13時から文教委員会で審議される予定です。

介護制度の充実を！（写真左中）



介護に笑顔を！道連絡会は、23日昼に大通公園で「社会保障予算を増やして介護制度の拡充」署名と宣伝を行いました。福祉保育労・勤医協在宅・勤医労・北海道勤医協・道民医連等から44人が参加し369筆の署名が寄せられました。

介護現場で働くヘルパー・ケアマネジャー・施設職員などが次々と、使いたくても使えない介護保険の実態、ワーキングプアと言われる介護労働者の実態を訴えました。また介護保険法の改悪で、軽度に認定されている利用者をサービスからはずさないようにと強調されました。

連絡会では11/11に「介護110番」、11/12・13には地下街でのパネル展などを予定しています。



精神障害者にも「運賃割引」制度の適用を！（写真左下）

障害者交通費助成削減に反対する連絡会は24日昼、「精神障害者にも『運賃割引制度』の適用を」の署名と宣伝を行いました。

行動には30人が参加して、320筆の署名が集まりました。精神・視覚障害の当事者が次々とマイクを握り、「病院に行かないと生きていけないのに交通費が大変」「たまには映画を見たいと思うけれど、交通費のことを考えてやめている」など、実態を伝える訴えが続きました。

「精神障害の人だけ外れているなんて知らなかった」「知人に障害を持った人がいて苦労している」などの声も寄せられ、修学旅行の高校生が集団でしてくれる姿も目立ちました。

「生活保護と最低賃金」を学習 ～ 豊平社保協総会



豊平区社保協の2011年総会が9/17に豊平区内で開催され、各団体から25人が参加しました。

記念講演では湯本要道労連副議長が「生活保護と最低賃金」の講演を行いました。

総会では各団体からの報告があり、守る会は国保差押えが増えていく実態、年金者組合は無年金・低年金者が多い実態、勤医協からは無料低額診療制度の学校訪問では子どもの貧困が深刻な実態等が次々と報告されました。

方針案、予算決算と、田中律守さんほか5人の代表委員と小林雄一事務局長等の役員も全体で確認されました。